**第４回基幹病院等連携強化実行会議（Ｈ29.7.26）議論の結果**

**議題１　これまでの議論について**

○　第３回基幹病院等連携強化実行会議において検討した議題及び各メンバーのご意見を再確認した。

**議題２　医療資源の全体最適と集中投資について**

○　医療資源の全体最適と集中投資の方策について，小児医療をモデルケースとした議論を行った。

○　各メンバーからの意見として，以下の発言があった。

　　　・　小児医療の高度化が進んでいる今，医療資源の分散や小児科医の数の問題等に対して，スピード感を持って対応していかなければならない。

　　　・　重要なのは患者にとっての視点であり，市民サービスの低下につながらないようにしなければならない。

　　　・　現在，小児科医の約40%が女性医師であるので，女性医師の働き方についても考えていかなければならない。

　　　・　高度医療を行う医療機関で初期医療から行うとシステムとしては非効率であり，患者にとってもよくないことなので，高度医療を集約させながら，初期医療への対応やフォローアップ医療は地域で広く役割分担するなど，地域連携の中で機能を集約しながらネットワークとして強みを持たせていくことができれば，非常に大きな価値がある。

**議題３　第３回小児医療体制検討ＷＧの状況について**

○　７月に開催した第３回小児医療体制検討ＷＧについて報告を行った。

**その他　有識者からのご意見**

　○　宮田裕章先生（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授）

　　　・　様々なデータやエビデンスを基に，症例集積や連携の効果やメリットについて，ご意見を賜った。

　○　辻琢也先生（国立大学法人一橋大学理事・副学長）

　　　・　国が進めている公立病院改革の動向や公立病院の独法化のメリットについてご意見を賜った。

　○　門田守人先生（地方独立行政法人堺市立病院機構理事長）

　　　・　ご自身の経験を踏まえた病院改革や連携の方策についてご意見を賜った。